

勝利は指導者と民衆の一心団結に、発展は内的要因に —朝鮮労働党第8回大会報告に学ぶ—



尾上 健一

チュチェ思想国際研究所事務局長

朝鮮労働党第8回大会は、2021年1月、内外の大きな関心と注目のなかで開催されました。

朝鮮労働党第8回大会は朝鮮において重要な意味があるだけでなく、世界の自主化をいかに実現していくのか、社会主義の完成はどのように導かれるのか、朝鮮の自主的統一、アジアの平和はどのように達成されるのかなどの重要な問題に普遍的な教示を与える歴史的な大会であったといえます。

1. 朝鮮労働党第8回大会の特徴

朝鮮労働党第8回大会は、これまでになく斬新な内容と形式でおこなわれたことに特徴があります。

金正恩総書記は朝鮮労働党第8回大会を「活動する大会、闘争する大会、前進する大会」と位置づけ、形式的な方法を排して実のある会議とするために、入念な準備をおこないました。

金正恩総書記は党大会の4か月前に非常設中央検討委員会を組織しました。中央検討委員会は実態調査グループを各道に派遣し、各現場で人々と生活をともにしながら、現場で働く労働者、農民、知識人などの意見に真摯に耳を傾けました。

「実態調査グループは第7回党大会の決定の貫徹で誤りを犯したのは何か、十分できることもしないで怠ったのは何か、実利的におこなったのは何か、形式的におこなったのは何か、間違ったことがあればその原因は何か、党の指導においても欠点があったとしたら何か、それらの内容をすべて解剖学的に調べました」

第8回党大会会期中(11日)においても、部門別協議会をおこない、各協議会での討議を反映した決定書「朝鮮労働党中央委員会第7期活動報告に提示された課題を貫徹することについて」を採択しました。

その結果、一連の活動によって下部で活動する党員の意見が反映され、すべての党員が党中央委員会活動報告の決定に積極的に関与し、その遂行に責任をもって取り組

む意識が高まりました。

さらに、朝鮮労働党第8回大会において、これまでの党大会の位置づけと役割が刷新されました。

朝鮮労働党第8回大会が斬新だと評される所以は、第7回大会で決定された国家経済発展5か年戦略がほとんどの部門で達成できなかったにもかかわらず、党大会を開催したことにあります。

朝鮮労働党第7回大会では、経済建設と核軍拡路線の並進路線である国家経済発展5か年戦略をうち出しました。慶祝閱兵式で明らかのように、朝鮮は世界最強の軍隊をもつようになり、核軍拡路線は大きな成功を収めました。

金正恩総書記はつぎのように述べています。

「いまの困難な状況で党大会を招集するのは、内外情勢の変化、発展に及ぼす影響からしても、社会主義政権党であるわが党の闘争展望からしても、大きな意義をもつ特記すべき政治的できごとであり、党の最高会議の招集そのものが、革命を勝利の次の段階に導いていこうとする朝鮮労働党の確固たる自信の表れ、国家の将来を担って自己の責務をりっぱに果たすことによって、人民の大いなる信頼と期待にこたえようとする強烈な意志、厳粛な誓いとなる」

党大会を開催すること自体が、社会主義偉業を発展させ民衆の幸せな未来を必ず実現しようとする朝鮮労働党の責任性の強さ、革命的意思の表れであり、党活動を発展させるうえで重要な契機となりました。

朝鮮労働党第8回大会において、党大会は成果をあげたうえで開催するという従来のもち方を改め、今後5年に一度招集することを党規約に規定しました。

さらに金正恩総書記は第8回党大会の基本思想と基本精神について、「結語」のなかで次のように述べています。

「第8回党大会の基本思想、基本精神は、社会主義建設の主体的力、内的動力を一段と強化し、各分野で新たな勝利を達成しようということであり、自分たちの力、内部の力を全面的に整理、再編して、それにもとづいてあらゆる難関を正面突破し、新たな前進の道をきり拓くことである」

金正恩総書記は経済建設の勝利の要因を外因ではなく主体に求め、主体の力を強めて計画を完遂する立場に立ち今後の経済建設の方向性を指し示しました。ここに第8回党大会のいまひとつの大きな特徴があります。

金正恩総書記は、国家経済発展5か年戦略が遂行されなかったことと関連して、「欠陥の主な原因を客観的要因ではなく主観的要因に求めるべきであり、すべての問題を主体の要求と役割を高めることによって解決していく」と述べました。

金正恩総書記は、遂行できなかったことは率直に認めつつ、なぜできなかったのか、どのようにして完遂していくのかを明らかにする態度が重要だと強調しています。

また、客観的条件にかこつけば何もできず、主体の役割は不要となり、不利な外的要因がなくなる限り、いつになっても自分たちの意志通りに革命と建設をおし進めることができないと指摘し、客観に欠陥の原因を転嫁する傾向に歯止めをかけま

した。

総括期間、朝鮮をめぐる客観的状況は厳しいものがありました。米国をはじめ敵対勢力が制裁・封鎖策動を継続していたこと、毎年襲った自然災害が甚大であったこと、昨年発生した新型コロナウイルスによる世界的な保健危機が長期化したことは、朝鮮がいまだ経験したことのないといわれるほどの難局でした。

しかし、金正恩総書記は計画を完遂し社会主義偉業を前進させるためにもっとも重要なことは、内的要因であると重ねて指摘しています。

さらに、金正恩総書記は主観的要因について具体的に明らかにしています。

まず、内因の一つは、国家経済発展5か年戦略が科学的な見積もりと根拠にもとづいて明確に作成されていなかったことです。外部の妨害よりも、内部の不真面目な活動態度に計画未達成の要因があるということです。

二つは、科学技術が実際に国の経済活動を牽引する役割を果たせなかったこと、三つは、不合理な経済活動体系と秩序を整備、補強するための事業が正しく遂行されなかったことです。

金正恩総書記は「人民の熱意を抑え、計画はずさんで非科学的、活動は実務的、形式主義に陥っている」と指摘しています。幹部の悪しき思想と活動のために経済建設目標が達成できなかつたと結論づけました。

金正恩総書記があえて欠点や課題を浮き彫りにしたのは、苦い教訓を得ることが発展するうえで必要であり重要とする立場、欠点や課題は前進の土台とするという意味の表れです。

金正恩総書記は、「われわれにはこれまでの成果も貴重ですが、それに蓄積した苦い教訓もきわめて貴重なものです」「厳しい内外情勢のなかで、経済活動をはじめとする各分野の活動では深刻な欠陥が表れたが、これは新たな発展段階、社会主義偉業の前進過程に表れた偏向であり、われわれの知恵と力でゆうに是正し解決できる問題です」と、主体を強化することを通して社会主義偉業の前途が切り開かれると楽観的に述べています。

2. 人民大衆第一主義の正当性と威力

金正恩総書記がおこなった総括報告の体系は、4つに分けられます。第1体系は“総括期間に収められた成果”、第2体系は“社会主義建設の画期的前進のために”、第3体系は“祖国の自主的統一と対外関係の発展のために”、第4体系は“党活動の強化、発展のために”となっています。

総括期間に収められた成果において強調されていることは、人民大衆第一主義の正当性と威力が証明されたことについてです。

金正恩総書記は、朝鮮労働党第7回大会から第8回党大会までの5年間は、人民を天としておしたて、人民に服務し、人民のために生きたたかった歳月であったと感慨深く振り返っています。

総括期間、朝鮮人民のみならず世界の人々は、金正恩総書記が誰よりも人民を敬い、人民のためになることであればどんな苦勞もいとわずに尽くしてきた姿を目の当たりにしてきました。ただひたすら人民の幸せを願い、人民のために先頭にたってたたかう指導者がいたからこそ、人民大衆第一主義が人々の指針になったということができません。

金正恩総書記は、国家經濟發展5か年戰略をよく遂行できなかった面はあっても、人民大衆第一主義によって生み出された偉大な成果は今後のたたかいをりっぱにおし進めていく大きな元手となったと総括しています。

金正恩総書記は人民大衆第一主義を貫く闘争を力強くおし進めるにあたり、「すべてを人民のために、すべてを人民に依拠して」をスローガンとして高く掲げました。

また、金正恩総書記は人民大衆第一主義を実行することにおいて、いささかの譲歩をすることなく徹底して貫き、人民の要求、人民の意志を尊重し、すべての生産と建設において人民の便宜を図ることを最優先していきました。さらに人民に献身する気風、心から人民を助け大切にすることを活動を広げていきました。

人民大衆第一主義にもとづいた活動が全社会的範囲で広がり強まっていく過程で、領袖、党、民衆の一心団結が実現し、全社会が一つの大家庭をなすようになりました。いま地球のどの地域、国においても社会全体が一つの睦まじい集団を形成しているところは、朝鮮において他に見ることができません。

人民大衆第一主義の威力はどのような結果として表れたのかについて、金正恩総書記は、「革命發展の原動力を民衆の心の中に見出し、心に火を点じる民衆第一主義の威力は、困難と情勢の変化に対処して、民衆の精神力と創造力を最大限に発揮させるうえで、集中的に表れた」と述べています。

民衆第一主義を貫いた結果、主体の政治的思想的力がかつてなく強化されていきました。革命發展の原動力は人民の心の中にあります。そのため、人民の心の中に入り人民の心に火を灯すことが革命をおしすすめるうえでもっとも重要な活動と言えます。人間を信じ、話しかけ、相手の関心事は何か、自主性を実現するうえで力になることは何かを考え献身した結果、相手は革命的に自覚したちあがっていくのです。

金正恩総書記は、「人民大衆第一主義を実現すれば、不利なすべての主観的客観的要因を克服し、膨大な課題を解決することができることが実証された、これは哲理となった」と明らかにしています。

3. 朝鮮労働党第8回大会で示された闘争戦略と方針

朝鮮労働党第8回大会において戦略的に三つのことが明らかにされたといえます。

一つは、朝鮮における社会主義革命の勝利、二つ目には、朝鮮の自主的統一、三つ目には世界の自主化偉業を勝利させる展望です。

一つ目の社会主義革命の勝利は、一心団結と新世紀産業革命、軍事強国建設が成し遂げられることが日程にのぼり、社会主義建設が最終的な段階を迎えていることを示

しています。

金正恩総書記は、朝鮮労働党第8回大会で、社会主義経済建設に総力を集中していくために新たな国家経済発展5か年計画を提起しました。

社会主義建設をいっそう新しい段階へとおし進めていく5か年計画は、「自力更生、自給自足」をテーマとして外部の影響を受けず経済を持続的に発展させる内容です。金正恩総書記は、今後5か年間の経済分野における闘争戦略を細部にわたって展開しました。

5か年計画の中心的課題は、工業分野では金属工業と化学工業を重視し、そこに投資を集中し、他の人民経済各部門を結合させて生産を増やすことです。今後の闘争戦略は工業と軽工業を発展させること、輸入依存率を下げること、潮力発電の推進、首都に5万世帯の住宅を建設することであり、全国を錦絵とする理想郷の実現です。国家経済の特徴は、自立経済、計画経済、人民に奉仕する経済です。

朝鮮は単に経済的に自立して強くなるだけではなく、新世紀産業革命を促して、高度な経済強国を実現しようとしています。第8回党大会で決定された国家経済発展5か年計画は、今後、朝鮮が社会主義理想社会を必ず実現していこうとする自負の表現であり、達成後は朝鮮の世界における地位を高めていくでしょう。

金正恩総書記は、朝鮮半島の統一問題は、大きく次の三つによって解決することを明らかにしました。

まず、何よりも自主を打ち立てることです。総括報告では、朝鮮の主敵は米帝であると明確に規定しています。また、平和統一を重視するがあまり分断を長期化することになってはならないと指摘しています。自主というのは外勢を追い出すことであり、そうしてこそ、自国の自主権を確立することができます。

帝国主義と原則的にたたかい、反帝反米闘争に勝利することが統一への道です。統一運動は、自主に基盤をおいた運動として展開されなければなりません。

つぎに、統一のためには南北が政治体制の違いを乗り越えて対話の方向に進んでいくことです。朝鮮と米国が対決し米帝が韓国から追い出され、韓国に自主的な民主政府が樹立されるなら、統一に向けた協商、対話が進展していくでしょう。

さらに、民族の分断を克服することです。分断の根本原因である外勢、とりわけ米帝に反対し、朝鮮半島全体で全民族が団結し、国の自主権を回復することを基本的課題としなければなりません。統一は民衆自身の力と意思でおし進めていくことが重要です。一部の上層部との交渉だけに頼っては統一を成し遂げることはできません。上層部との対話をとりつつも、下層統一戦線を形成していくことが最終的勝利につながります。

金正恩総書記の統一のための指針は自主で貫かれ、かつ主体である南北民衆の主体的力に依拠することを明確に打ち出したものです。今回の統一方針は、金正恩総書記の統一への不退転の意思、そのための具体的な方針が示された画期的な内容となっています。

南北関係においては、韓国の政治姿勢を厳しく指摘し、今後の対応を注視する姿勢

を表明しています。現在、韓国は朝鮮にたいする軍事的敵対行為と反共和国謀略騒動を続けているだけではなく、対米従属政策によりイラン制裁に加担するなど反動的な政策を強めています。

金正恩総書記は、韓国当局が不正常で反統一のおこないを根本的に正してこそ、南北関係改善の新しい道が拓かれると明言しています。

同時に金正恩総書記は、韓国当局の態度次第で南北関係は再び三年前の春のように、平和と繁栄の新しい出発点へ戻ることも十分可能であると、韓国政府の進むべき道を教示しています。

金正恩総書記は対米関係について、改めて原則的な立場を示しました。

重要なことは、金正恩総書記が米帝国主義の規定を改めて、世界人民のもっとも凶悪な敵、主敵であると断定したことです。

朝鮮は米国との関係において隷属や屈服を排して自主の原則を貫き、朝米間の緊張緩和を実現しました。その結果、朝鮮半島と世界において平和的な雰囲気醸成されました。

また、中国、ロシアの首脳にたいしても、直接出向いて親しく会談し、伝統的な親善関係を発展させました。キューバ、ベトナムの首脳会談もおこない、社会主義国との団結と連帯をいっそう強化してきました。

困難な状況下において、朝鮮はなぜ対外関係を強化発展することができたのでしょうか。

金正恩総書記は二つの要因を強調しています。一つは、朝鮮が徹頭徹尾、自主性を原則にした対外活動をおこなったことです。二つは、困難であればあるほど党のまわりに堅く結集した人民の団結した力があったことです。

こんにち、米国の弱体化の側面だけを見て、米国は帝国主義としての本性が弱まったとみなす向きもあります。しかし、帝国主義は自ら滅亡することも、自ら侵略的本性を弱めることもありえず、米帝国主義は依然として朝鮮革命発展の主な障害、最大の主敵です。

米国で新しい政権が生まれ、対朝鮮政策に変更があるのではないかと期待する声もありますが、金正恩総書記は誰が権力の座についても米国という実体と対朝鮮政策の本心は絶対に変わらないと正確に判断しています。

そのうえで、新しい朝米関係樹立の要は、米国が対朝鮮敵視政策を撤回することであり、今後も強対強、善対善の原則に基づいて米国に対応するとの立場を表明しています。

また、金正恩総書記は、世界の自主、平和のために反米反帝国統一戦線を形成することの重要性を強調しています。朝鮮はいま、世界の自主、平和のための旗手として、各国の手本となっており、金正恩総書記が示している反米反帝国統一戦線は、世界の自主平和のために各国が進むべき方向を示すものです。

4. 党員の基本任務は思想活動、理念は以民為天、一心団結、自力更生

金正恩総書記が党活動で強調していることは、まず、全党に党中央の唯一的指導体系を確立し、党中央の権威を絶対化し擁護することです。

つぎに内部活動に力を入れ一心団結を強化することです。党活動において党の内部活動を実質的におこなって、党と革命隊伍の一心団結を実現することが重要です。

さらに幹部を思想的に純化し能力がある人材で固めることを提起しています。

党は指導者を中心に思想、意思的に一つになって活動する組織です。党においては何よりも思想活動を党の基本任務の一つとして位置づけ、革命と建設の全期間にわたり強めるようにすることが大切です。

また、金正恩総書記は党活動を親人民的におこなうことを強調しています。民衆の心に触れる人間味あふれた党活動をめざし、生きた現実に結びついた活動をするということことです。

金正恩総書記は「結語」において、特別にスローガンは掲げず、朝鮮における伝統的な理念を再度提案しました。

「わたしは、今回の党大会で何らかのものものしいスローガンを掲げるよりも、わが党の崇高な“以民為天”、“一心団結”、“自力更生”という三つの理念を今一度銘記することで、第8回党大会のスローガンに代えようと提起します。」と述べています。

金正恩総書記が示した以民為天、一心団結、自力更生の三つの理念は社会運動において普遍的指針になります。

以民為天は、人民をもっとも高くおしたて、人民に服務することを意味します。人民に奉仕し、人民のためだけに生き、活動しなければならないということを示しています。

一心団結は、指導者と党と大衆がひとつの心で団結していくことです。単なる方法論ではなく、社会主義の未来像を示しています。

自力更生は、状況が厳しければ厳しいほど、内的な力、自分たちの力を発揮して自力で乗り切っていくことです。

金正恩総書記は自力更生は自分を強くする生命線であり発展の武器であると述べています。

自力更生は帝国主義による制裁が強化される一方、社会主義国同士は協力する関係を弱めるというもっとも厳しい状況のなかで威力を発揮しました。

「“以民為天”、“一心団結”、“自力更生”、まさにここにわが党の指導力を強められる根本的秘訣があり、わが党が大衆の中に一層深く根を下ろすための根本的方途があり、われわれが唯一に生き続け、前途を切り開くことのできる根本的保証があります。」と述べています。

総括期間、とくに核武力の完成をもって、朝鮮は軍事強国、戦略国家として世界における地位を確保するようになりましたし、自力更生を原則とする自立的経済発展を平和的におこなえるようになりました。この間、前人未踏の、手に余るような大きな

課題に取り組む厳しい闘争の過程で指導者と人民の一心団結がより強まってきました。

金正恩総書記は、世界のなかで唯一、核武力を完成させ自力更生と一心団結をもって前進する朝鮮、そのわが国に自負心を持って今後の課題にのぞんでいくという意味において「わが国家第一主義」の時代を開いたと表明しています。

芸術公演「党はうたう」と朝鮮労働党第8回大会慶祝閱兵式は、まさに人民のなかに「わが国家第一主義」が息づき巨大な力となって発露していることを示したと言えるでしょう。

さらに、朝鮮労働党第8回大会後の特筆すべきことは、朝鮮労働党第8期第2回総会が、2月8日から11日まで4日間にわたって開催されたことです。

第2回総会の意義について、金正恩総書記は以下のように報告しています。

「1年の活動を計画する段階から誤った部分を正し、人民のための大きな仕事を新しく確定したという意味で、また、活動家の間に内在していた消極性と保身主義をはじめ思想的病根を探して是正できるようになったという意味で、今回の第2回総会が適切な時期に開催された」

第2回総会を開催した目的は、朝鮮労働党第8回大会が示した初年度のたたかいを貫徹するためです。

金正恩総書記は、内閣から提起された今年の経済計画には、党大会の思想と方針が正しく反映されておらず、革新的な眼識と明白な策略が見えないと厳しく指摘しています。また、計画を作成するうえで、内閣が主導的な役割を果たさず、各部署から提出されてきた数字を機械的にまとめただけで、責任を果たしていないと批判しています。

民衆の幸せな生活を実現するために、内的問題を大胆に明らかにし、克服の方途も計画も正確に定め、強固な意志で実行していく闘いが、全社会的に緊張をもっておし進められています。

いま金正恩総書記の領導のもと、朝鮮は社会主義強国への道を力強く前進しています。

朝鮮労働党第8回大会とその後の朝鮮人民のたたかいは世界を自主平和の方向に導くうえで、

各国の社会発展においても、普遍的な指針を示すものです。

わたしたちは人民のために真心をもって献身する金正恩総書記に深く学び、金日成・金正日主義を研究し普及することの重要性と責務を強く自覚しながら、世界の研究者と手を携えて積極的に活動していくでしょう。